

解析数理要論課題 1

2018 年 5 月 23 日

1 問題 1

1.1 Young の不等式

Jensen の不等式を用いる。Jensen の不等式は以下のようなものである。

$f(x)$ を \mathcal{R} 上の凸関数とする。 $p_i \in \mathcal{R}$ ($i = 1, 2, 3, \dots$)、 $\sum_{i=1}^{\infty} p_i = 1$ とし、 x_1, x_2, x_3, \dots を実数の列とする。
このとき、

$$\sum_{i=1}^{\infty} p_i f(x_i) \geq f\left(\sum_{i=1}^{\infty} p_i x_i\right) \quad (1)$$

となる、というのが Jensen の不等式の主張である。

Young の不等式は、 $a, b, p, q \in \mathcal{R}$ 、 $a, b \geq 0$ 、 $1 < p < \infty$ 、 $\frac{1}{p} + \frac{1}{q} = 1$ としたとき、

$$ab \leq \frac{a^p}{p} + \frac{b^q}{q} \quad (2)$$

または、

$$ab \leq \epsilon a^p + (1 - \epsilon) b^q \quad (3)$$

と表される。これを示す。

$f(x) = e^x$ とするとこれは \mathcal{R} 上の凸関数である。Jensen の不等式より $\frac{1}{p} + \frac{1}{q} = 1$ を満たすような $p, q \in \mathcal{R}$ 、 $p, q > 1$ について $x, y \in \mathcal{R}$ をとって

$$\frac{e^x}{p} + \frac{e^y}{q} \geq e^{\frac{x}{p} + \frac{y}{q}} \quad (4)$$

となる。ここで、 $x = p \log a$ 、 $y = q \log b$ とすると、

$$\frac{e^{p \log a}}{p} + \frac{e^{q \log b}}{q} \geq e^{\frac{p \log a}{p} + \frac{q \log b}{q}} \quad (5)$$

$$\iff \frac{e^{\log a^p}}{p} + \frac{e^{\log b^q}}{q} \geq e^{\log a + \log b} \quad (6)$$

$$\iff \frac{a^p}{p} + \frac{b^q}{q} \geq ab \quad (7)$$

1.2 Hölder の不等式

$p, q \in \mathcal{R}$, $1 < p < \infty$, $\frac{1}{p} + \frac{1}{q} = 1$ を満たす数とする。 $u \in L^p(a, b)$, $v \in L^q(a, b)$ とする。このとき $uv \in L^1(a, b)$ であり

$$\int_a^b |uv| dx \leq \|u\|_p \|v\|_q \quad (8)$$

となる、というのが Hölder の不等式の主張である。

$s = \frac{|u|}{\|u\|_p}$, $t = \frac{|v|}{\|v\|_q}$ とすると、Young の不等式により

$$\frac{|uv|}{\|u\|_p \|v\|_q} = \frac{|u||v|}{\|u\|_p \|v\|_q} \leq \frac{|u|^p}{p\|u\|_p^p} + \frac{|v|^q}{q\|v\|_q^q} \quad (9)$$

となる。ここで両辺を積分すると

$$\int_a^b \frac{|uv|}{\|u\|_p \|v\|_q} dx \leq \int_a^b \frac{|u|^p}{p\|u\|_p^p} dx + \int_a^b \frac{|v|^q}{q\|v\|_q^q} dx \quad (10)$$

$$= \frac{1}{p\|u\|_p^p} \int_a^b |u|^p dx + \frac{1}{q\|v\|_q^q} \int_a^b |v|^q dx \quad (11)$$

$$= \frac{1}{p\|u\|_p^p} \|u\|_p^p + \frac{1}{q\|v\|_q^q} \|v\|_q^q \quad (12)$$

$$= \frac{1}{p} + \frac{1}{q} \quad (13)$$

$$= 1 \quad (14)$$

したがって、両辺に $\|u\|_p \|v\|_q$ を掛けることで、

$$\int_a^b |uv| dx \leq \|u\|_p \|v\|_q \quad (15)$$

を得る。

1.3 Minkowski の不等式

$1 < p < \infty$ とするとき、 $u, v \in L^p(a, b)$ ならば $u + v \in L^p(a, b)$ であり、

$$\|u + v\|_p \leq \|u\|_p + \|v\|_p \quad (16)$$

となる、というのが Minkowski の不等式の主張である。

まず、 $|u(x) + v(x)|^p \leq (|u(x)| + |v(x)|)^p \leq 2^{p-1}(|u(x)|^p + |v(x)|^p)$ であるから、

$$\|u + v\|_{L^p} = \left(\int_a^b |u + v|^p dx \right)^{1/p} < \infty \quad (17)$$

より、 $u + v \in L^p(a, b)$ である。ここで、 $\frac{1}{p} + \frac{1}{q} = 1$ を満たすような q を考えると、 $q = p/(p-1)$ であるから、

$$\| |u + v|^{p-1} \|_{L^q} = \left(\int_a^b |u + v|^{(p-1)\frac{p}{p-1}} dx \right)^{1-1/p} < \infty \quad (18)$$

ゆえに $|u + v|^{p-1} \in L^q$ である。

$$\|u + v\|_p^p = \int_a^b |u + v|^p dx \leq \int_a^b |u + v|^{p-1} |u| dx + \int_a^b |u + v|^{p-1} |v| dx \quad (19)$$

の右辺第一項に Hölder の不等式を適用すると、

$$\int_a^b |u + v|^{p-1} |u| dx \leq \left(\int_a^b |u|^p dx \right)^{1/p} \left(\int_a^b |u + v|^{(p-1)q} dx \right)^{1/q} \quad (20)$$

$$\iff \int_a^b |u + v|^{p-1} |u| dx \leq \left(\int_a^b |u|^p dx \right)^{1/p} \left(\int_a^b |u + v|^p dx \right)^{1/q} \quad (21)$$

同様にして右辺第二項も

$$\int_a^b |u + v|^{p-1} |v| dx \leq \left(\int_a^b |v|^p dx \right)^{1/p} \left(\int_a^b |u + v|^p dx \right)^{1/q} \quad (22)$$

となる。式 (19) に式 (21, 22) を適用することにより

$$\|u + v\|_p^p \leq \left(\int_a^b |u|^p dx \right)^{1/p} \left(\int_a^b |u + v|^p dx \right)^{1/q} + \left(\int_a^b |v|^p dx \right)^{1/p} \left(\int_a^b |u + v|^p dx \right)^{1/q} \quad (23)$$

$$\iff \|u + v\|_p^p \leq \|u\|_p \left(\int_a^b |u + v|^p dx \right)^{(p-1)/p} + \|v\|_p \left(\int_a^b |u + v|^p dx \right)^{(p-1)/p} \quad (24)$$

$$\iff \frac{\|u + v\|_p^p}{\|u + v\|_p^{p-1}} \leq \|u\|_p + \|v\|_p \quad (25)$$

$$\iff \|u + v\|_p \leq \|u\|_p + \|v\|_p \quad (26)$$

を得る。

2 問題 2

Banach 空間 X の点列 $\{x_n\} \subset X$ に対し、部分和 $S_N := \sum_{n=1}^N x_n$ の列 $\{S_N\}_{N=1}^\infty$ を考える。これが X で収束するとき「級数 $\sum_{n=1}^\infty x_n$ は X において和を持つ」という。

2.1 (1)

X : Banach 空間とする。 X の点列 $\{x_n\}$ が $\sum_{n=1}^\infty \|x_n\| < \infty$ を満たすとき級数 $\sum_{n=1}^\infty x_n$ は X で和を持つことを示す。

ここで、 $\sum_{n=1}^N \|x_n\| \rightarrow 0$ とする。このとき $N > M$ として三角不等式より

$$\|S_N - S_M\| = \left\| \sum_{n=1}^N x_n - \sum_{m=1}^M x_m \right\| = \left\| \sum_{n=M+1}^N x_n \right\| \leq \sum_{n=M+1}^N \|x_n\| \quad (27)$$

であるが左辺は収束するため $\{S_N\}$ は Cauchy 列である。ここで X は Banach であるから X の全ての Cauchy 列は収束する。

したがって $\{S_N\}$ は収束するため、級数 $\sum_{n=1}^{\infty} x_n$ は X で和を持つ。